

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202502		
法人名	社会福祉法人 長崎友愛会		
事業所名	ゆうあいホーム はな畑		
所在地	長崎県佐世保市大湯町152-1		
自己評価作成日	令和5年10月15日	評価結果市町村受理日	令和5年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和5年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍に際し、ご家族や地域とのかかわりが一時期疎遠になってしまいましたが、法人理事長の意志の元、令和4年12月頃より条件付とはしたものの、面会や外出・外泊の規制を緩和し、ご家族との関係を維持してきました。幸い、ご家族、職員(職員の家族含め)のご理解とご協力の元、今現在で入居者様のコロナ感染はあっておりません。  
施設自体は閑静な住宅街の中にあり、近隣との関係も良好で、存在自体も認識いただいております。  
最近では、地域猫活動にも取組、町内・法人・近隣の了解を得て、野良猫の増加しないよう取り組んでおります。また、それが入居者様の癒しにも繋がっているようです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは佐世保市の北部の高台に位置し、眺望に恵まれている。フロアの窓からは夏に開催される花火大会を一望でき、入居者は歓声をあげて喜んでいる。住宅街に立地し、暮らし慣れた地域で生活でき、地域の中のグループホームとして地域住民と親交・交流している。近隣地域には野良猫が多く住みつき地域の課題となっていたため、町内会長の了承と市の助成金を活用し、ホームの有志職員が協力して地域猫活動を発足させ、定められた環境整備や、猫の去勢手続き等、地域と協力して野良猫が繁殖しないよう取り組んでいる。ホームへ下校中の小学生が立ち寄りキャットフードを猫に与える姿が入居者のアニマルセラピーや癒しとなり、ホームが地域住民に認識され、地域との繋がりを更に深めている。ホームの取り組みや外部との風通しの良い関係性が、入居者への質の良いサービスの提供に繋がっており、今後も地域に溶け込んだ支援に期待が持てるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内で職員が目にする場所数か所に掲示しており、定期的に共有し理解実践に努めています。	施設内で職員が目にする場所数か所に掲示しており、定期的に共有し理解実践に努めています。	ホームは家庭的な雰囲気の中で入居者本位の生活を継続できるよう支援に努めている。理念の下、管理者は理念を踏まえた目標を職員に提示し、半年に1回、職員の自己評価と管理者による評価を実施し、目標達成度を法人に報告している。更に新たな目標を立て理念に沿って支援に日々努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に会費を納めて、大清掃の時は利用者様と一緒に草取りをしたり、夏祭りの時はお手伝いや参加をしています。避難訓練でも、消防団や町内の方にご協力いただくときもあります。	町内会に会費を納めて、大清掃の時は利用者様と一緒に草取りをしたり、夏祭りの時はお手伝いや参加をしています。避難訓練でも、消防団や町内の方にご協力いただくときもあります。	コロナ禍により地域行事も少なかったが、年2回の市民大清掃には職員と入居者が参加している。今年の地域夏祭りには、焼き鳥やかき氷の出店を引き受け、地域との繋がりが交流に繋がっている。また、地域には野良猫が多く、被害があったため、昨年夏に町内会長の了承の下、市の助成金を活用して地域猫活動を開始しており、現在も地域の協力を得て継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に実績はありません。	特に実績はありません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	はな畑の運営状況や、利用者様の入退所・入退院・外泊・アクシデントについて報告。また、世間や地域についての状況等について意見を求めたり話し合ったりしています。必要なことについては、職員へ伝達し向上に努めています。	はな畑の運営状況や、利用者様の入退所・入退院・外泊・アクシデントについて報告。また、世間や地域についての状況等について意見を求めたり話し合ったりしています。必要なことについては、職員へ伝達し向上に努めています。	家族代表、地区会長、民生委員、地域包括支援センター職員、知見を有する者として他事業所の管理者が構成メンバーとなっている。入居者の状況やアクシデント、活動、人事異動、今後の活動等についてメンバーとの質疑応答や身体拘束廃止の取り組みについて報告し、ホームの現状を会議に諮り、外部への透明性や入居者への質の良いサービス提供に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時に連絡を取る程度。	必要時に連絡を取る程度。	市長寿社会課とはメールでの事故報告や介護認定更新等の諸手続きに窓口に出向いたり、成年後見制度を利用予定の入居者がおり関係機関と協力できるように対応している。地域包括支援センターとの空床状況の連絡や社会福祉協議会による日常生活自立支援事業の金銭管理を依頼する等、関係機関と積極的に協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部外部を含めて、定期的な勉強会や研修に参加し理解を深めるよう努めています。気づいたときには、その行為が身体拘束にあたるのかどうかを、都度その場の職員同士が話し判断できるようにしている。	内部外部を含めて、定期的な勉強会や研修に参加し理解を深めるよう努めています。気づいたときには、その行為が身体拘束にあたるのかどうかを、都度その場の職員同士が話し判断できるようにしている。	身体拘束廃止委員会は運営推進会議のメンバーで構成している。法人内の勉強会や外部研修に職員が参加し、全職員に伝達する等、身体拘束についての理解を深めている。日常の支援の中で気づいた時に職員が互いに確認し合う等、身体拘束のない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、職員間で気づいたことは上司や先輩職員に伝えることができる環境を意識している。報告があった時には、一方的ではなく、傾聴して客観的に判断し適切に指導している。	虐待については、職員間で気づいたことは上司や先輩職員に伝えることができる環境を意識している。報告があった時には、一方的ではなく、傾聴して客観的に判断し適切に指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や講演会などが開催されるときは、職員に対して広報している。知識としての必要性も伝えている。	研修や講演会などが開催されるときは、職員に対して広報している。知識としての必要性も伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要説明書等時間を割いていただき説明、ご理解を受けている。説明中も、要所要所でご理解度を確認しながらすすめている。	契約書、重要説明書等時間を割いていただき説明、ご理解を受けている。説明中も、要所要所でご理解度を確認しながらすすめている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所されたり、電話連絡をいあt抱いたときには、利用者様の状況やリスクについて伝え、はな畑での意向やご家族の意見や意向をお尋ねしている。	ご家族が来所されたり、電話連絡をいあt抱いたときには、利用者様の状況やリスクについて伝え、はな畑での意向やご家族の意見や意向をお尋ねしている。	職員は入居者との日頃の会話時に意見や要望を汲み取り、家族の面会時や電話連絡時に入居者の生活の様子と起こりうるリスクに関して伝達し、家族からの意見や要望を聞き取っている。収集した情報は申し送りノートや個人記録に記載したり、職員の全体会議で検討する等、情報共有と今後の運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に聞く姿勢があることは示している。必要時には、その意見や提案を本部に連絡相談等を行っています。	常に聞く姿勢があることは示している。必要時には、その意見や提案を本部に連絡相談等を行っています。	職員は入居者の生活状況を観察する中でADLの変化に応じた支援に繋げるため、常に意見を出し合っている。嚥下機能の低下時の食事形態変更や、義歯不適合時の歯科受診、歩行状態の変化に応じた車椅子対応等、臨機応変に対応できるように日常的に意見を出し合い実践することで職員が判断力を身に付けられるよう取り組んでいる。職員の個人的な相談は、相談内容によって管理者が解決に向けて職員に寄り添った姿勢で関わりを持つよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の家庭環境も必要程度に把握し、家族の状況も声掛けし把握できるように努めています。そのことを考慮し、日頃の勤務や緊急時等の対応を、職員全員に呼びかけて協力し合えるように、努めています。	個々の家庭環境も必要程度に把握し、家族の状況も声掛けし把握できるように努めています。そのことを考慮し、日頃の勤務や緊急時等の対応を、職員全員に呼びかけて協力し合えるように、努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	信頼を置ける職員とともに、偏りが無いようにつ、必要時に適切と思われる研修が受けられるように、相談決定している。	信頼を置ける職員とともに、偏りが無いようにつ、必要時に適切と思われる研修が受けられるように、相談決定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の取組を活用し、交流やネットワークづくりに努めている。他事業所からの訪問見学交流会も最近行ったところです。	グループホーム連絡協議会の取組を活用し、交流やネットワークづくりに努めている。他事業所からの訪問見学交流会も最近行ったところです。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が同意の上入居される方は少なく、ほとんどが入居してからコミュニケーションを密にして、できるだけ早く信頼関係が構築できるように努めている。	ご本人が同意の上入居される方は少なく、ほとんどが入居してからコミュニケーションを密にして、できるだけ早く信頼関係が構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最近、面会や外出について問われることが多く、できるだけ面会や外出に連れて行っていただけるようお願いしている。できうる限り柔軟に要望等には対応できるように意識している。	最近、面会や外出について問われることが多く、できるだけ面会や外出に連れて行っていただけるようお願いしている。できうる限り柔軟に要望等には対応できるように意識している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入段階で急ぎや、切羽詰まっている方も少なからず居られるので、入所が最終初段ではなく。入所してからも、状況を見て必要なサービスを検討相談していけるように努めている。	導入段階で急ぎや、切羽詰まっている方も少なからず居られるので、入所が最終初段ではなく。入所してからも、状況を見て必要なサービスを検討相談していけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まずは、利用者様を主体におくことと意識している。言葉や表情にも気を付けながら、気づきを大切にしている。	まずは、利用者様を主体におくことと意識している。言葉や表情にも気を付けながら、気づきを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できるだけ、面会や一緒に外出していただくことをおすすめている。またその時に、気づいたことや気になることはなかったかをお尋ねしている。	できるだけ、面会や一緒に外出していただくことをおすすめている。またその時に、気づいたことや気になることはなかったかをお尋ねしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	努めるようには意識しているが、実際の支援ができているとは言えない。ご家族の希望や要望もお尋ねしている。	努めるようには意識しているが、実際の支援ができているとは言えない。ご家族の希望や要望もお尋ねしている。	職員は入居者の入居前と入居後にこれまで生きてきた経緯を聞き取り、フェイスシートに記載している。コロナ禍により馴染みの場所との関係継続の支援が途切れていたが、今後は行きつけの店舗や以前から習慣として通っていた場所との関係継続を徐々に支援していく予定である。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	意識し支援できるように努めているが、性格や生活歴や環境などの違いによって非常に難しい。どうしても孤立してしまいがちな方もいらっしゃるが、そのような時は職員が対応できるように努めている。	意識し支援できるように努めているが、性格や生活歴や環境などの違いによって非常に難しい。どうしても孤立してしまいがちな方もいらっしゃるが、そのような時は職員が対応できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、ご家族等が連絡相談にみえたら、対応する姿勢に努めている。	必要に応じて、ご家族等が連絡相談にみえたら、対応する姿勢に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員個々で把握、対応するのではなく、情報は共有し話し合っ、ご本人ファウストで検討できるように努めている。	職員個々で把握、対応するのではなく、情報は共有し話し合っ、ご本人ファウストで検討できるように努めている。	職員が入居者との関わりの中で発した言葉から希望や意向を聞き取っている。意見の表出が困難な方には家族にも意向を聞き取り、把握した内容を全職員で情報共有し、サービスの提供に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートに生活歴を記載したり、コミュニケーションで得られた情報は、ケース記録に記載し共有できるようにしている。	フェイスシートに生活歴を記載したり、コミュニケーションで得られた情報は、ケース記録に記載し共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況の変化や気づきは、記録や口頭で申し伝え共有把握できるように努めている。	状況の変化や気づきは、記録や口頭で申し伝え共有把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い、モニタリングや気づき、ご家族の状況や伝達事項、要望などを共有し共通認識をもち、今後のケアのすすめかたを検討している。	毎月カンファレンスを行い、モニタリングや気づき、ご家族の状況や伝達事項、要望などを共有し共通認識をもち、今後のケアのすすめかたを検討している。	各入居者の担当職員がモニタリングを実施し、毎月のカンファレンス時に介護計画の見直しや変更する入居者について目標達成度等を検討している。事前に把握した入居者や家族の意向に沿った目標を掲げ、入居者の状況に応じたサービス内容を提供している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	基本的な事項は一覧にし、変化や状況を把握しやすいようにしている。特記事項については、文字で記録を残している。	基本的な事項は一覧にし、変化や状況を把握しやすいようにしている。特記事項については、文字で記録を残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員のマンパワーに制限はあるが、何が多機能化は分からないが、柔軟にできる限りの対応はできるように意識している。	職員のマンパワーに制限はあるが、何が多機能化は分からないが、柔軟にできる限りの対応はできるように意識している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	正直なところ、支援できているとは言えないと思う。	正直なところ、支援できているとは言えないと思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	新規受診科目や病院が必要と感じた時には、必ずご家族に説明相談の上、ご家族での対応や、職員の対応で行っている。	新規受診科目や病院が必要と感じた時には、必ずご家族に説明相談の上、ご家族での対応や、職員の対応で行っている。	入居時にホームの協力医について説明し、希望に応じた受診支援を行っている。月1回、協力医による訪問診療の受診や週1回、訪問看護師による健康管理を受けることができる。他科受診については家族とともに同行支援を行っている。受診時には職員が入居者の個人記録を持参しスムーズな診療に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護の看護師とも良好な関係を構築し、相談しやすい状況に努めている。	毎週の訪問看護の看護師とも良好な関係を構築し、相談しやすい状況に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後1週間後に、SWや看護師と連絡をとり、状況や退院の目処、今後について話し合っている。	入院後2週間後に、SWや看護師と連絡をとり、状況や退院の目処、今後について話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に指針について説明し、以降の確認を行っている。その後は、利用者様の状態の変化に伴う必要時に改めて、説明し以降の確認を行っている。	入所時に指針について説明し、以降の確認を行っている。その後は、利用者様の状態の変化に伴う必要時に改めて、説明し以降の確認を行っている。	看取りの指針に基づきホームでできること、できないこと、ホームでできなければ同法人の施設の受け入れ施設があることを本人や家族に説明している。協力医による看取り期の判断後、家族に意向を再確認し、ホームで看取りを希望するのであれば、家族が最期まで本人に寄り添える環境を提供する等、看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが、手順は掲示し確認するように伝えている。	定期的には行っていないが、手順は掲示し確認するように伝えている。	/	/
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の避難訓練を、消防署と連携し行っている。都合がつくときは、地元消防団とも連携し取組んでいる。毎日、自主防火点検表にてチェックしている。	年3回の避難訓練を、消防署と連携し行っている。都合がつくときは、地元消防団とも連携し取組んでいる。毎日、自主防火点検表にてチェックしている。	昼間・夜間想定避難訓練を実施している。消防署立ち会いの下、入居者とともに避難訓練を実施している。全職員は消火器を使用した訓練を受け、初期消火ができる技能を身に付けている。地元消防団と協力体制を築いており、訓練の参加を依頼している。	消防計画について、変更事項の反映ができていない部分が窺えるため、防火管理者の変更や退職した職員の名前が残っていないかを再確認し、必要に応じて関係書類を消防署へ提出することが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員お互いに、声のかけ方や言葉遣いに違和感があるときは、それが適切だったか確認をとるようにしている。	職員お互いに、声のかけ方や言葉遣いに違和感があるときは、それが適切だったか確認をとるようにしている。	コロナ禍前は法人全体で各種研修を実施していたが、コロナ禍により年間計画に定めた研修は実施できなかった。接遇マナー研修についてはホーム内で勉強会を実施し、入居者の対して適切な接し方ができるよう職員間で互いの言葉遣いを確認している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が意思を伝えたい、表情などを感じ取り傾聴するように心がけている。	利用者様が意思を伝えたい、表情などを感じ取り傾聴するように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室で休みたいときや、過ごしたいときは制限することなく対応しているが、どう過ごしたいか希望に沿った支援は必ずしもできていない。	自室で休みたいときや、過ごしたいときは制限することなく対応しているが、どう過ごしたいか希望に沿った支援は必ずしもできていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温、体調に沿ったものであれば制限せず、支援している。お化粧される方、好みの服を着られる方などがいらっしゃる。	季節や気温、体調に沿ったものであれば制限せず、支援している。お化粧される方、好みの服を着られる方などがいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルを拭いていただいたり、コップなど持てるものは流しまで運んでいただいたり支援している。 好みや、アレルギーを把握し、代替品などで対応している。	テーブルを拭いていただいたり、コップなど持てるものは流しまで運んでいただいたり支援している。 好みや、アレルギーを把握し、代替品などで対応している。	入居者の嗜好やアレルギーは入居時に確認しており、入居者の嗜好の変化があることを職員は理解している。調理担当職員を選任して食事を提供し、行事ごとに持ち回りの行事担当、調理担当、イベント食が得意な職員を中心に、入居者の誕生日に合わせて手作りケーキや雛人形を形にしたお寿司、菜の花の小鉢、ピザ作り等、入居者に喜んでもらえるようバラエティーに富んだ食事の提供に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食確認し経過表に記録している。水分は、定時や希望があったときに提供しており、1000cc以上は確保できるようにしている。	食事摂取量は毎食確認し経過表に記録している。水分は、定時や希望があったときに提供しており、1001cc以上は確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアには誘導しており、自立・一部介助・全介助等適した支援を行っている。	毎食後、口腔ケアには誘導しており、自立・一部介助・全介助等適した支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安全面を確保した状況で、適した排泄状況を検討相談し、変更を行っている。必要時は、ご家族に連絡し状況をお伝えし変更している。	安全面を確保した状況で、適した排泄状況を検討相談し、変更を行っている。必要時は、ご家族に連絡し状況をお伝えし変更している。	入居者の排泄状況について頻繁に検討を行い、特に排便に関して状況を把握し、適切な座薬や服薬使用に努めている。グループホーム協議会開催のおむつ等の検討会に職員が参加している。おむつ1枚の価格の比較や同じ品物でもドラッグストアが安価であれば職員が購入に向くなど家族の経済的負担を考慮して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、内服薬の調整や訪問看護や主治医へ相談支持をいただいたりして、適宜行っている。	排泄チェック表を活用し、内服薬の調整や訪問看護や主治医へ相談支持をいただいたりして、適宜行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	業務の流れ上で、時間帯は決めている。声掛けの際拒否されれば無理には行わないが、その間隔などを確認して必要時は説明して入浴を促すことはある。希望があれば、同性介助も行っている。	業務の流れ上で、時間帯は決めている。声掛けの際拒否されれば無理には行わないが、その間隔などを確認して必要時は説明して入浴を促すことはある。希望があれば、同性介助も行っている。	入居者の希望に応じて入浴支援を行い、入浴する順番への拘りや同姓介助の希望に沿った支援に努めている。入居者が季節を感じてもらえるよう菖蒲湯や柚子湯を取り入れている。職員は入浴時が一番のコミュニケーションの場であると捉え、入居者との話の中で日頃は表出しないことを聞き取るなど入浴時の会話を大切に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室には、温湿度計を置いており、室温、湿度を確認しながら適切な環境を整えられるように努めている。日中でも、自室で休むことができるようにしている。	居室には、温湿度計を置いており、室温、湿度を確認しながら適切な環境を整えられるように努めている。日中でも、自室で休むことができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個々にファイリングしており、今の服薬状況を確認できるようにしている。	薬の説明書を個々にファイリングしており、今の服薬状況を確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	適切に取り組めているとは思わない。	適切に取り組めているとは思わない。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員だけでは、取組めていない。ご家族には、外出、外食外泊も含めて可能な旨、お伝えし促している。	職員だけでは、取組めていない。ご家族には、外出、外食外泊も含めて可能な旨、お伝えし促している。	コロナ禍で外出支援が困難であったが、現在は希望に応じて外出や外泊等ができることを積極的に家族へ伝えている。最近、入居者本人が生活していた実家で1週間家族と一緒に過ごした事例もある。職員は入居者の誕生日に食べたいものを聞き出し、ちゃんぽんを食べに外出する等の取り組みを継続するなど、本人の希望に応じた外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	どうしてもトラブルに発展してしまうケースがあり、ご家族や職員が管理している。特に利用者様が、お金を使用する機会はない。	どうしてもトラブルに発展してしまうケースがあり、ご家族や職員が管理している。特に利用者様が、お金を使用する機会はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の所持については制限しておらず、ご家族と通話される利用者様もおられる。	携帯電話の所持については制限しておらず、ご家族と通話される利用者様もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り、天気や時間帯により工夫しているつもりではありません。	できる限り、天気や時間帯により工夫しているつもりではありません。	入居者が居心地よく過ごせるようフロアに並列してソファを設置している。共有空間は入居者それぞれが寛げる場所として自然に座る場所が決まり、入居者はゆったりと穏やかに過ごされている。定期的な換気や清掃により、清潔な共有空間の環境整備に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで座る位置は指定はしていないが、落ち着き気の合う方と座っておられる。	フロアで座る位置は指定はしていないが、落ち着き気の合う方と座っておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	動物好きの方には、動物のポスターを貼ったり、お位牌を置いたり、家族写真を置いたり、火器等危険物とみなされるもの以外は、特に制限していない。	動物好きの方には、動物のポスターを貼ったり、お位牌を置いたり、家族写真を置いたり、火器等危険物とみなされるもの以外は、特に制限していない。	居室への持ち込み品については、入居時に説明し、火気や刃物等以外は馴染みのものを持ち込むことができる旨を説明している。各居室には小さな仏壇を置いたり、猫の写真を壁いっぱい貼ったりと、入居者のその人らしい居室作りができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設備、掲示物等を含めて十分でないところも多々あるように感じています。	設備、掲示物等を含めて十分でないところも多々あるように感じています。		